

## ファン・デ・ナゴヤ美術展2012

一般公募による企画コンペティションで選ばれた4人の企画者による斬新な美術展を開催します。会期中は毎日、公開制作をご覧ください。

**会期** 1月12日(木)～1月22日(日)※16日(月)は休館  
9:30～19:00(日曜日は17:00まで)

**会場** 市民ギャラリー矢田  
**料金** 無料

### イベント

企画者・作家による  
アーティストトーク  
1月14日(土)14:00

#### 緘黙する景色 企画:伊藤正人(第1展示室)

今、この瞬間に私たちがものを考え、目の前の出来事に対して判断を下す時、その一連の思考の経緯には「言葉」というものが常に基軸になって働いています。私たちは言語化をなすまでに少なからず緘黙の中で言葉を巡らせています。どのような言葉であれば目の前の景色、あるいは作品について言い表すことができるのであろうかと。※緘黙(かんもく)…口を閉じて喋らないこと。だんまり。

出品作家:河田政樹、丹羽康博、村田仁、伊藤正人



#### ふんのせんともものもの～二人の線が出会うはなし～ 企画:文谷有佳里(第2展示室)

宇田もとと文谷有佳里が「ドローイング」を展示・滞在制作します。

滞在制作では、ふたりで一枚の紙に描いたり、各々別々に描いたり、お喋りしながら描いたり、ドローイングを切ったり貼ったり…

その場でできたドローイングは毎日壁に展示していきます。

出品作家:文谷有佳里、宇田もと



#### SPOT/IN/CUBE 企画:近藤佳那子、古畑大気、山下蒼子(第3・4展示室)

本企画は他人と自分との関係を探る若手作家達のグループ展です。展示室での作品展示と展示室内に作られた小屋(キューブ)の中での公開制作を行います。この二つの空間が平行しつつも交わる展示の中、作家と観る人それぞれが他人と共有出来るもの、出来ないもの、その中で自分はどうかを考えます。

出品作家:遠藤俊治、近藤佳那子、塚本智也、花木彰太、古畑大気、山下蒼子



#### Plants Architecture 企画:石塚礼子(第5・6・7展示室)

「Plants」は野菜や果物を食べたこと、育てた植物の花が咲いたこと、実が成ったこと。

「Architecture」はペンと紙で絵を描くこと、掘り取りたいイメージに向かうそんな過程。

「Plants Architecture」の関心事は、自己と他者との相互的なかたち。

出品作家:石塚礼子、伊藤大茂、井藤雄一、加藤良将、茶谷麻里、長谷部勇人



**主催** ファン・デ・ナゴヤ美術展2012実行委員会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団、名古屋市

**問い合わせ** 市民ギャラリー矢田 TEL052-719-0430 FAX052-719-0440

## 「花より華らしく…芸術に生きた女・女・女」

地元の現代舞踊の横断的団体である(社)現代舞踊協会中部支部と連携し、今までにない現代舞踊公演を実施します。地元で活躍する女性振付家3人が、地元縁のある3人の女性をテーマにした斬新な振付作品を披露します。振付家が、テーマにする3人の女性のイメージをそれぞれ「花」に例え、その生き様を表現します。女性振付家が魅せる様々な女性像にご期待ください。

**日時** 3月16日(金)19:00  
17日(土)15:00/19:00  
18日(日)15:00

### 振付・出演

**会場** 千種文化小劇場

**料金** 一般3,000円 高校生以下2,000円<日時指定・全自由席>  
※事業団友の会会員は1割引(事業団及びナディアパークプレイガイド一般前売のみ)

**主催** 公益財団法人名古屋市文化振興事業団、名古屋市、  
社団法人現代舞踊協会中部支部

**問い合わせ** 公益財団法人名古屋市文化振興事業団 TEL 052-249-9387  
社団法人現代舞踊協会中部支部 TEL 052-703-8971



近藤夕希代  
(花子-うめ-)



倉知可英  
(川上貞奴-つばき-)



服部由香里  
(三岸節子-さくら-)

## 伝統文化シネマ鑑賞会1・2・3月

日本の伝統文化を未来に一人間国宝の卓越したわざ、各地域に伝承されてきた民俗行事は、時代を超えて私たちに語りかけてきます。優れた無形の伝統文化を記録した映画を月1回、各文化小劇場にて上映します。

### 日時・会場・上映作品

1月11日(水)14:00 中村文化小劇場

①陶芸 「土と炎と人とー清水卯一のわざー」  
(31分・1990年完成)

②島根 「神々のふるさとー出雲神楽ー」  
(41分・2002年完成)



島根・出雲神楽

1月25日(水)14:00 天白文化小劇場

※台風の影響で上映中止となった作品の振替上映です。

①陶芸 「備前焼 伊勢崎淳の挑戦ー伝統と革新のはざまー」  
(33分・2007年完成)

②福岡 「ふるさとからくり風土記ー八女福岡の燈籠人形ー」  
(31分・1987年完成)



福岡・ふるさとからくり風土記

2月14日(火)14:00 名東文化小劇場

①染織 「紬に生きるー宗廣力三ー」  
(32分・1988年完成)

②漆芸 「重要無形文化財 輪島塗に生きる」  
(34分・1990年完成)



漆芸・輪島塗

3月 7日(水)14:00 熱田文化小劇場

①長野 「新野の雪祭りー神々と里人たちの宴ー」  
(30分・1981年完成)

②染織 「彩なす首里の織物ー宮平初子ー」  
(40分・2003年完成)



長野・新野の雪祭り

**料金** 無料(当日先着順)

**問い合わせ** 中村文化小劇場(定員350人) TEL052-411-4565 FAX052-411-3253  
天白文化小劇場(定員350人) TEL052-806-8060 FAX052-806-8050  
名東文化小劇場(定員356人) TEL052-726-0008 FAX052-760-1230  
熱田文化小劇場(定員352人) TEL052-682-0222 FAX052-682-0220

**主催** 公益財団法人名古屋市文化振興事業団/財団法人ポーラ伝統文化振興財団

# なごや文化情報



2011  
12  
Dec.

NAGOYA Cultural Information No.333

## Contents

- 十二月のうた・・・・・・・・・・・・・・・・ 2  
 随想 柴 幸男（劇作家・演出家・ままと主宰）・・・・・・ 3  
 視点 愛知県合唱連盟50周年～いつまでも まとめ/小沢優子・・ 4  
 座談会 企画公演のあゆみ（I）進行・まとめ/倉知外子・・ 6  
 ピックアップ・・・・・・・・・・・・・・・・ 8  
 おしらせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9



### 表紙

作品

#### 「無題」

(2010年/素材・土・竹・和紙)

岩倉総合高校でのワークショップにて、学生さん達と2週間かけて家を造りました。皆との共同作業はとても楽しかったです。

### 森北 伸 (もりきた しん)

1969年 名古屋市生まれ

1992年 愛知県立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒業

2008年 第14回 石田財団芸術奨励賞 受賞

2009年 愛知県芸術文化選奨 文化新人賞 受賞

名古屋市芸術奨励賞 受賞

現在、愛知県立芸術大学美術学部准教授

お酒を飲むようになったのは、大人になって良かったことのひとつだ。飲む、というのはつまり飲む体質だったということだ。これはもう先祖様の誰かか感謝するしかない。(とはいえず、うわばみには程遠いんだけど)今年の春まで両親が「しげ」という小さな居酒屋を東区で営んでいた。純粋に客として飲むことはなかったけれど、カウンターに座ってビールを飲みつつ、父のつくろ煮物をあれこれ選ぶのは楽しかった。

(「お酒を飲む」)

## 十二月のうた

### 火酒

後藤 由紀恵  
ごとう ゆきえ

身のうちに風吹きぬけて君からの

メールに短き返信をする

胃の腑へと落ちゆく火酒にあたたまる

冬の身体を持てあましおり

とけてゆく氷の速さに追いつかぬまま

歳末の街はかがやく

## 随想

### いるべき場所、なすべき仕事



しば ゆき お

柴 幸男 (劇作家・演出家・ままと主宰)

自分はどこで暮らし、どんな仕事をするのか。それをずっと考えています。実際に昨年から、一年の半分を東京で、もう半分を別の町で暮らし、仕事をしています。

愛知県のはずれで生まれ育った後、上京し、勉強し、仕事をしてきました。ここにないものが東京にあって、東京で生活することが、目的のひとつだったからです。そこにいるために家賃を払い、家賃を捻出するために仕事をしていました。

誰と生活するか、どんな家族を作るかは、一般的にも、話題にすべき問題のようです。しかし、「どこに」住むかは、進学や就職という節目でこそ考えるものの、一度、仕事に就いてしまうと、なかなか自由には考えられない問題のようです。おそらく次の節目は老後でしょう。

僕は演劇を作るのが仕事です。演劇は身動きがとりづらい仕事です。建物である劇場は移動できないし(野外劇やテントなどの例外はありますが)、演劇は一人では作れません。俳優やスタッフも必要で、演劇が移動すれば、彼ら全員の移動が必要になります。

しかし、それでも、僕は移動について考えています。住む場所と、仕事をする場所の、両方で。演劇を作る、という仕事は、それを東京ですること、他の町ですることとは、まったく意味が異なることによく気がついたのです。どこで作り、誰に見せるか。僕は、もう一度、自分の

仕事を探さなければいけないと感じています。

そんなわけで、去年から、いろいろな町で演劇を作り、生活してきました。そして今年、3月11日、東日本大震災。今一度、なぜ僕は東京に住むのかを考えさせたできごと。放射線も、電力も、食べ物も、水も、それらを我慢してまで、どうして東京に住まねばならないのか。同じように考え、東京を離れた人もいます。

今まで当たり前になっていた、そこで生活する理由を、考える。もしそれが、家賃を、維持するための「仕事」でしかないのなら、とてもむなししいと僕は考えています。生活すると共に仕事をしていたはずが、仕事をするために生活している。目的と手段が混同している、僕はそう思うのです。

成し遂げたい仕事。一緒にいたい人。そこでしかできない生活。それらがある場所で、生きていきたい。でも、そんなものを探すなんていうのは、本当はウソで、わかっているのに、見つかっているのに、いまの「家」を出る、勇気がないだけなんだと、最近では考えています。

そして、いるべき場所に、移動したあとでさえ、僕は考え続けたいのです。その場所が永遠にそうである理由はなく、いつだって自由に生きたいから。そのための勇気をずっと、ずっと持ち続けたいと、そう思っています。

## 愛知県合唱連盟50周年～いつまでも

アマチュアの合唱活動を促進させるだけでなく、ベートーヴェンの《第九》などの合唱付き大作の演奏で名古屋のクラシック音楽文化の充実に大きな役割をはたしてきた愛知県合唱連盟。今年で設立50周年を迎え、10月には記念演奏会を催した。未来へ向かって新たな一步を刻んだ愛知県合唱連盟の歩みや今の様子を簡単に記してみたい。

(まとめ:小沢優子)

### 設立と発展

10年前に刊行された『愛知県合唱連盟40年史』によると、愛知県合唱連盟の源となるのは1947年に発足した東海合唱連盟。やがて名称が中部合唱連盟に改められ、伊勢湾台風で中部合唱コンクールの開催が名古屋市から岐阜市へ移されたことが1つのきっかけとなって、中部7県それぞれの合唱連盟を単位とした組織に作り直されることになった。そこで、すでに合唱連盟を成立させていた富山、福井、長野、石川、岐阜に続き、愛知県でも1961年2月に合唱連盟が設立されるに至った。

初代理事長、岩佐傳氏のもとで合唱祭やコンクール、交歓演奏会が意欲的におこなわれ、1962年12月には、結成されたばかりの名古屋オーケストラ連盟とともに終楽章に合唱と独唱を持つベートーヴェンの交響曲第9番を演奏。オーケストラも合唱もソリストもすべて地元の音楽家による、名古屋にとっては意義のある《第九》だった。この演奏会は1966年の第5回で終わってしまったが、その年、名古屋オーケストラ連盟の中心メンバーを基盤にして名古屋フィルハーモニー交響楽団(名フィル)が誕生している。

翌年、岩佐氏の後を受けて藤井知昭氏が理事長に就任。30年に渡る氏の在任中には、合唱祭、コンクール、発声講習会や合唱指導者講習会、種々の特別演奏会、吹奏楽連盟とのチャリティ・トップコンサート、ヴォーカル・アンサンブルコンテストなどの多くの行事を催し、1974年からは名フィルの年末の《第九》の特別演奏会に毎年出演。1985年には、東海合唱連盟設立の時から援助を受けている朝日新聞社の主催によるマーラーの交



名古屋フィルハーモニー交響楽団《第九》(2006年12月)

響曲第8番《千人の交響曲》の演奏会に863名で参加し、壮大な調べを外山雄三氏指揮の名フィルとともに奏でている。そのほか、1990年代の「わかしゃち国体」「ゆめピック愛知」「ゆうあいピック愛知」の開会式、閉会式の式典音楽を担い、社会的、公的な行事への協力をはたしていることも見逃せない。

高須道夫氏が3代目の理事長となって4年目の2001年に設立40周年。多くの資料を収集、整理した『愛知県合唱連盟40年史』が編集委員長の渡邊俊雄氏を中心にして編まれ、前史を含めて50年余に及ぶ連盟の道のりが記録されている。

### 長谷順二理事長のもとで

今年の7月現在、愛知県合唱連盟に加盟している団体の数は、中学校32、高校33、大学14、職場部門3、一般部門108の合計190。延べ人数は、個人加盟を入れて6,600人を越える。この大規模な組織を統括しているのは、8年前から理事長をつとめている長谷順二氏。

名古屋・伏見の朝日新聞社内には置かれている事務局を訪れ、ここ10年の状況を長谷理事長と事務局長の鈴木紘仁氏にうかがった。

少子化によって合唱人口が減少し愛知県の合唱活動にもその影響が見られるのでしょうか、ときいきなりぶしつけな質問をすると、そのようなことはないという。ちなみに、加盟団体は1990年度が96、2000年度が148。小さな合唱団が増えてきたこともあるが、加盟団体は今年度の190にまで増加しており、そのため、連盟の行事に参加する団体も多くなっている。毎年おこなわれる合唱祭や合唱コンクールは、以前は1日の開催だったのが2日に分けての開催となり、合唱祭を例にあ



理事長の長谷順二氏

げると、2006年から2010年の間に参加団体数は123から139へ、参加人数は3,775人から4,208人へと着実な増加を示している。残念なのは、今まで会場に使っていた愛知県勤労会館が閉館となってしまったことである。そのため、合唱祭・コンクールは稲沢市民会館・刈谷市総合文化センターなど名古屋市郊外で行った。

今年度の連盟の行事は、恒例の合唱祭、合唱コンクール、ヴォーカル・アンサンブルコンテスト、名フィルの《第九》特別演奏会などのほかに、「設立50周年記念演奏会」や「わくわく合唱アカデミー」。「わくわく合唱アカデミー」は最近始められたもので、名古屋市教育委員会の主催。中学生を対象に8月と11月に合唱の講習会をおこなう。生徒だけでなく先生にとっても合唱を勉強することのできる楽しくなる講習会である。



わくわく合唱アカデミーの様子

### 《いつまでも いつまでも》

「準備には力を入れました。練習回数をかなり多く設けたので、とくに練習を運営するスタッフが大変でした」と長谷理事長が語る「設立50周年記念演奏会」は、藤岡幸夫氏指揮の名フィルとの共演で、10月2日(日)、愛知県芸術劇場コンサートホールで開かれた。

オープニングは、混声合唱付きのシベリウスの交響詩《フィンランディア》。有名なオーケストラ曲だが、合唱を伴うと力強さと輝きは増し、新鮮な趣である。第1部は日本人作曲家による合唱作品。小林秀雄、信長貴富、高田三郎、三善晃の女声合唱、男声合唱、混声合唱の曲が歌われた。平和への祈りが込められた《夕焼け》をこの日のためにオーケストラ伴奏版に編曲した信長氏が会場に聴きにこられ、記念演奏会に花を添えていた。氏は合唱界では人気の高い作曲家で、数年前の連盟の合唱祭でも講師をつとめられている。

第1部の最後は、日本を代表する名古屋出身の作曲家、新実徳英氏に委嘱した愛唱歌《いつまでも いつまでも》。女声でも男声でも混声でも歌えること、ピアノ伴奏でもオーケストラ伴奏でもアカペラでも歌えること、という連盟からの要望をすべて満たしてつくられたこの曲は、立原道造の詩の世界を豊かなイメージと清新な音楽性で表現したとても魅力的な合唱曲だ。「ずっと歌っていききたい」という長谷理事長の言葉どおり、皆から愛され歌われる作品となるだろう。

第2部は、カール・オルフの《カルミナ・ブラーナ》。二宮咲子、末吉利行両氏の独唱と児童合唱も加わって、

壮麗で躍動的な歌声を響かせた。最後に再び《いつまでも いつまでも》が歌われ、設立50周年の記念演奏会を美しくさわやかに締めくくった。



同演奏会の第2部《カルミナ・ブラーナ》

### 来年は…

来年は2月に『愛知県合唱連盟設立50周年記念誌』が発刊されることになっている。『40年史』に続く貴重なドキュメントとなることだろう。

また、7月には愛知県と三重県のアマチュア・オーケストラがマーラーの全交響曲に取り組む「名古屋マーラー音楽祭」で交響曲第8番《千人の交響曲》を歌う。タイトルのとおり、第8番は巨大な規模を持つマーラーの記念碑的大作で、オーケストラと8人の独唱者、2つの混声合唱、児童合唱を必要とする。取り上げられる機会はなかなかないが、名古屋では先述した1985年の後、1988年と1995年に演奏されている。17年ぶりとなる来年の《千人の交響曲》は、音楽祭参加の10団体のメンバーから構成される記念オーケストラと愛知県合唱連盟の諸団体から成る合同合唱団により、指揮は井上道義氏。7月15日(日)と16日(月・祝)、愛知県芸術劇場大ホールでおこなわれる。すでに加盟団体に参加を呼びかけ、多くの合唱団から希望が寄せられている。練習はそれぞれの団で個別にこなし、それから全体での練習となる。大ホールの舞台をどのように使い合唱を配置するのはこれからの課題である。本番までにはいろいろな苦労や困難があるかもしれないが、熱のこもったすばらしい《千人の交響曲》を聴かせてほしいと思う。

愛知県合唱連盟は、大都市の合唱連盟の中でも規模が大きい上に中学、高校、一般のレベルが高く、コンクールでもすぐれた成績をおさめ中部7県では群を抜いているという。長谷理事長に今後の抱負をたずねると、「現状を保つことが第一ですが、何よりも、たくさんの方に関わっていただき、合唱はいいものだという認識を多くの人に持っていただきたい」とのこと。この日も夜は年末の《第九》の練習。日々の積み重ねの中で愛知県合唱連盟の歴史はたゆみなくつくられていく。



# 企画公演のあゆみ( I ) ~これまでの足跡と今後の展望について~

せき やま み き お  
関山三喜夫 (関山三喜夫舞踊団代表)

くり き ひで あき  
栗木英章 (劇団名芸代表)

なつ め ひさ こ  
夏目久子 (声楽家) / かとう のり こ  
加藤典子 (声楽家)

(進行・まとめ：倉知外子)

## ■ ミュージカル「シンデレラ」公演に向けて

名古屋市文化振興事業団が企画から制作まで全てを手掛けているオペレッタ・ミュージカルなどの企画公演。その初演は1985年2月のことでした。以来、地元制作の総合舞台芸術公演として定着し、毎年開催を楽しみにしている市民も多いと聞きます。来年2月に上演される、第28回目となるミュージカル「シンデレラ」もまた地元で活躍する舞台人の総力が結集されることでしょう。そのスタッフには愛知県出身の演出家・永井寛孝氏、音楽監督と指揮を中島良史氏、振付・高木順子氏を迎え、キャストは約6倍に近いオーディションで選ばれた32人。いよいよ本番に向け、稽古が始まりました。初演からスタッフ、キャストとして関わってきた現在の制作委員の関山三喜夫氏、栗木英章氏、夏目久子氏と前制作委員の加藤典子氏にこれまでの思い出やミュージカル「シンデレラ」の魅力などについて伺いました。

## ■ 充実した思い出の作品集

【司会】制作委員の皆さんは今年度の上演作品「シンデレラ」に期待を寄せていらっしゃるでしょうし、また過去の上演作品に出演された方もいらっしゃると思います。「シンデレラ」まで28作品を毎年継続してきた意義や思い出などをお聞かせください。

【関山】1作目から全作ではありませんが、制作委員として関わってきました。趣旨は地元の音楽・演劇・舞踊といった総合舞台の公演を創り、新しいものを発信しようということです。芸術創造センターが開館し、市文化振興事業団が発足したことが重要な契機でした。スタッフの一員として初公演は感激しましたし、30年近く継続されていることは力強く思います。

【司会】約30年、毎年欠かさことなく開催してきたことは真にすごいことです。私もできる限り観てきました。

【関山】特に10作目の「照手と小栗」は創作もので、13作目にも名古屋市民芸術祭主催事業で再演、東京では文化庁芸術祭主催公演に採用された、忘れられない作品です。その成



### 関山 三喜夫

1957年に現・関山三喜夫舞踊団設立、代表。1971年ハワイ公演を始め、海外公演も数多く手がける。1999年には舞踊生活50周年記念公演を開催するなど、現在も舞台に立ち作品を発表し続ける。社団法人現代舞踊協会理事・中部支部長。1986年愛知県芸術文化選奨文化賞、2005年名古屋市芸術特賞を受賞。



### 栗木 英章

1962年仲間と劇団名芸(初期は「でくのぼうの会」)結成。以降半世紀にわたり、創作・役者・企画制作などを担当(作品は約150作)。1994年より劇団代表。劇団は自作品で3度、名古屋市民芸術祭賞受賞。個人としては名古屋演劇ペンクラブ賞(1999年)、松原英治・若尾正也記念演劇賞受賞(2004年)。

果はたいへん大きなものがあり、その後も創作もの、すなわちオリジナルな作品を取り上げるキッカケになりました。

【加藤】私は1作目の「三文オペラ」、3作目の「ボーギーとベス」に出演しました。夜中まで練習をし、スタッフが出演者の安全に苦心されていたようです。どの作品にも意気込みはあるでしょうが、初幕あけということもあって全てにおいて全員がすごい意気込みでした。演出家の鈴木完一郎さんの指導はたいへん厳しく、出演者が涙をポロポロと流しながらも叩きこまれたことを覚えています。

【関山】時代の流れもあるのですが、その当時はどんなに厳しくても耐え抜く気骨のようなものがありました。やはりその時々演出家やスタッフによっても若干スタイルが違います。4作目の「マイ・フェア・レディ」の中村孝夫さん、5作目の「メリー・ウィドウ」の宮本亜門さんも大変厳しく、出演者にとって勉強になったと思います。



名古屋市文化振興事業団 企画公演第1作目「三文オペラ」(昭和60年2月 芸術創造センター)

【夏目】私は6作目と17作目の「サウンド・オブ・ミュージック」、12作目の「こもり」、13作目の「照手と小栗」(名古屋と東京公演)、15作目の「かるめん・じょーんず」、18作目の「天国と地獄」他に出演しました。名古屋二期会のオペラに戻った時、これらの公演で経験したことが活かしていることを実感しました。演技とはどういうものか、オ



### 夏目 久子

関西及び名古屋二期会、大阪喜歌劇楽友協会、名古屋演奏家ソサエティ、市事業団等で、オペラ、オペレッタ、ミュージカルに出演。福光音楽セミナー終了コンサートにて会長賞。名古屋二期会、市事業団理事。NFCC講師(ミュージカル科)、演奏家ソサエティ副代表。アンサンブルシオン指揮者。山査子の会、紫苑会主宰。

ペラの人たちにも幅広い体験を勧めたいです。

【栗木】私は25作目の創作ミュージカル「トーカー・トーカー」で初めて出演しました。思い返すと初演の「三文オペラ」の鈴木完一郎氏はたいへん厳しい演出家でしたから、名古屋の市民参加によるセミプロ的な活動の作品をどう手がけるのかと思って観ていました。名古屋で新しい舞台を創ろうという時でしたから、東京でやる以上に厳しく意欲的であったように感じました。

【司会】スタッフ、キャストや観客の反響はいかがでしたか。

【加藤】毎年開催されるようになったことで、身近な人たちが興味や期待を持ってくださることにより観客動員に繋がってきていると思います。また、若い人たちが舞台に参加できる場が増えたというのは、大きな意味があると思います。

【関山】市民にとっても気軽に観に出かけ、ミュージカルやオペレッタに触れる良い機会になってきていると思います。特に「照手と小栗」は事業団の財産にしたい。

【栗木】「照手・」は音楽も一般的なオーケストラとは異なり、邦楽器も入っていました。

【加藤】さらに、回り舞台もあり、衣裳もたいへん趣があり楽しめました。

【夏目】この地域の財産になります。東京公演のとき、海外公演もぜひと言われました。



名古屋市文化振興事業団 企画公演第10作目「照手と小栗」(平成6年2月 芸術創造センター)

## ■ 観客動員の変遷と難しさ

【司会】入場者数は1回の公演で平均で500人ほど、12回公演の頃には1作品で6,000人以上の方に観ていただいて



### 加藤 典子

名古屋二期会発足後、旗揚げ公演のフィガロの結婚「スザンナ」役を始め、数多くのオペラに出演。NHK合唱コンクール、CBCこども音楽コンクール、全日本学生音楽コンクールなどの審査委員。女声合唱団「かの子会」「コロ・アマビレ」指揮者。1978年度名古屋市芸術奨励賞、1993年愛知県芸術文化選奨文化賞受賞。

いますね。ちなみに昨年までの観客総数は123,639人です。

【加藤】今の若い人たちは私たちの頃と比べてみると、出演者になって楽しんでいて、これだけ努力したので観てほしいと、積極的にアピールする意欲が薄いように思えます。

【栗木】最初の頃は晴れ舞台という思いもあったし、公演回数も多く、観客動員にも勢いがありました。そのうち出演することがドキドキすることだけでなく、チケットを売ることに必死さが薄れたのでしょうか。事業団では券売に協力的な人、そうでない人のデータがあると思いますが、意欲的に売る人の刺激を受けてほしいですね。

【司会】オーディションの要項に最近は「チケット販売に協力できる人」と明記されています。これからの課題でもありますね。過去に5作目の「メリー・ウィドウ」は私立中学校の学校観賞会で上演されています。こういう機会に若い人たちが観るのも良いですね。

【関山】出演者にどれくらいのお金をかけて舞台を創っているのか、マネージメント的な側面も知らしめることも出演者の勉強になるのではないのでしょうか。

【加藤】もっと貪欲に学ぶ気持ちをもって舞台に関する様々なことを自分のものに取り込んでほしいと思います。

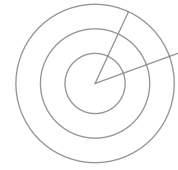
【司会】演目を選ぶことも悩ましいのでしょうか。今回の「シンデレラ」が選ばれた経緯や、フレッシュなキャストと高い技量のスタッフでおとぎ話「シンデレラ」がどのようなミュージカルになるのか期待をもって、次号で伺います。

(次号に続く)

## 公益財団法人名古屋市文化振興事業団 企画公演のあゆみ

上演回	上演年度	演目・演出等
1	昭和59年度	三文オペラ 演出/鈴木完一郎、音楽監督・指揮/小林啓二、振付/佐々良子
2	昭和60年度	トニーとマリヤ 構成・振付/河野潤、演出/増原彬彌、音楽監督/吉井延隆
3	昭和61年度	ボーギーとベス 演出/松本重孝、音楽監督・指揮/竹本泰蔵、振付/佐々良子
4	昭和62年度	マイ・フェア・レディ 演出/中村啓夫、音楽監督・指揮/古谷誠一、振付/坂上道之助
5	昭和63年度	メリー・ウィドウ 演出・振付/宮本亜門、音楽監督・指揮/竹本泰蔵
6	平成元年度	サウンド・オブ・ミュージック 演出/増田邦彦、音楽監督・指揮/古谷誠一、振付/川出光子
7	平成2年度	天国と地獄 演出/伊藤田静弘、音楽監督・指揮/古谷誠一、振付/川出光子
8	平成3年度	回転木馬 演出/中村啓夫、音楽監督・指揮/竹本泰蔵、振付/坂上道之助
9	平成4年度	アニーと銃をとれ 演出・振付/坂上道之助、音楽監督・指揮/古谷誠一
10	平成5年度	照手と小栗 作・演出/ふじたあさや、作曲・音楽監督/三木裕、振付/西田堯、指揮/山田信秀、西野淳
11	平成6年度	三文オペラ 演出/加藤直、音楽監督・指揮/古谷誠一、振付/夏目陽子
12	平成7年度	こもり 演出/増田邦彦、音楽監督・指揮/岡田司、振付/松原扶佐子
13	平成8年度	照手と小栗 作・演出/ふじたあさや、作曲・音楽監督/三木裕、振付/西田堯、指揮/山田信秀、西野淳
14	平成9年度	フィガロの結婚 演出/松本重孝、音楽監督・指揮/牧村邦彦、振付/佐々良子
15	平成10年度	かるめん・じょーんず 演出/加藤直、音楽監督・指揮/古谷誠一、振付/伊藤多恵
16	平成11年度	メリー・ウィドウ 演出/中村啓一、音楽監督・指揮/松尾泉子、振付/松原扶佐子
17	平成12年度	サウンド・オブ・ミュージック 演出/青井隆治、音楽監督・指揮/古谷誠一、振付/神戸珠利
18	平成13年度	天国と地獄 演出/鶴山仁、音楽監督・指揮/牧村邦彦、振付/松原扶佐子
19	平成14年度	ショウ・ポート 演出/菊本健郎、音楽監督・指揮/西野淳、振付/宇佐見祐林
20	平成15年度	ビッグ 演出/水野誠子、音楽監督・指揮/西野淳、振付/三代真史
21	平成16年度	夏の夜の夢 作/山元清多、作曲・音楽監督/萩京子、演出/齋藤敏明、指揮/吉住典洋、振付/平山静乃
22	平成17年度	コンガラ野球団! 作/仰典彦、作曲・音楽監督/弥富文八、演出/右来左往、振付/三代真史、アクション/杉本明樹
23	平成18年度	伯爵令嬢マリツア 演出/加藤直、音楽監督・指揮/古谷誠一、振付/小川典子
24	平成19年度	オズの魔法使い 演出/松本祐子、音楽監督・指揮/西野淳、振付/高木順子
25	平成20年度	トーカー・トーカー 作・脚本/麻創けい子、演出/伏見樹理、作曲・編曲/相内勝彦、振付/岩下佳代
26	平成21年度	チャルダッシュの女王 演出/伊藤明子、音楽監督・指揮/齊藤一郎、振付/三代真史
27	平成22年度	海の向こうに 作・上演台本・作曲・演出/西田直木、作曲・編曲・音楽監督/会田敏樹、指揮/小島岳志、振付/吉田 潔
28	平成23年度	シンデレラ 上演台本・訳詞・演出/永井寛孝、音楽監督・指揮・編曲/中島良史、振付/高木順子

# ピックアップ



## 第2弾公演を12月に控えたナビロフトの「SLOFT」 北村想が構想する「新しい演劇伝授」のカタチ

今年9月、北村想作・演出の「夕月～あるハムレット考～」は、天白区原のナビロフトにて「SLOFT（スロフト）」のファーストワークとして披露された。2週間にわたる週末に7ステージ。長年住みなれた名古屋を離れていた北村想氏が、帰還直後からスタートさせた新しい試みだ。4人の若手女優が北村氏の未発表作品に挑戦し、あくまでゲストとして参加した火田詮子、金原祐三子、中島由紀子が華を添え、根強い観劇ファンが全国から足を運んだ。各回定員50名の客席は連日ほぼ満員だった。

「アンチヒエラルキーの基本姿勢を貫くため、システムをしっかりする必要があった」とは北村氏の言葉。「演劇の道場」と位置づけられるSLOFTは、劇団でも長期ワークショップの場でもない。参加する俳優は「加名員」と呼ばれ、劇団員ではないので団費やノルマ、運営作業からも解放されている。もちろん北村氏直々の指導にも授業料は発生せず、参加条件は「男性18歳以上、女性16歳以上、1976年以降の生まれであること」。そして「俳優を志すこと」のみ。他の劇団に所属していても構わないし、逆に目標継続活動の5年間に一度も舞台に立てない可能性もある。問題はいかに鍛錬するかであり、何かを保障する関係でもないのだ。

「実際、余分な金が動いていない。この楽しさはなかなかのモノ」と北村氏。「スタッフもゲストも

本番の弁当以外はノーギャラ。助成金などの『お世話にならない』ポリシーが根底にあって、逆にアウトリーチや巡業もしない。参加したけりゃSLOFTに来てね、って感じかな」と潔い。

SLOFT発足の動機を北村氏に尋ねると「僕の名古屋に戻ろうとする想いと、ロフトを支えてきたスタッフが『世代の断絶を痛感』し『時代を超えて伝承したい』理念と意地が、化学反応した感じ」との答え。実際若手俳優が80年代小劇場の芝居に関心は持っていても、それを伝える場がない現状があり、それが北村氏を動かしたという。

もう一つ特筆すべきは「ロフト」という劇場がそのまま道場である強み。若手出演者は実寸の舞台上、有志のプロスタッフの下、1週間以上前から舞台稽古を経験できる。これまた通常の劇団やワークショップでは決して味わえないこと。あくまで作品づくりのプロセスの中で全てを伝えていくのが北村流。この方法論は、名古屋の演劇においても、大きな投石となることだろう。

そんなSLOFTの第2弾、北村想書きおろしの「この夜の果てへ」は12月の第2、第3の週末に、もちろん「ナビロフト」にて。新しい演劇継承の模索と進化に、ぜひ立ち会いたいものだ。(H)

問い合わせ ナビロフト TEL052-807-2540



12月公演の稽古初日風景から



初稽古から「劇場で」全てが始まる



北村 想氏

## 2012年(平成24年) 第1回市民半額鑑賞会

中日劇場、御園座の2月・3月・4月の公演が、通常料金の半額でご覧いただけます。

### ◆申込方法

往復ハガキに下記の内容を必ずご記入のうえ、

12月12日(月)《消印有効》までにお送りください。

〈往信(裏面)〉

1.希望公演番号(1枚1公演・同一番号の複数申込不可)

2.人数(2人まで)、3.〒住所、4.氏名(ふりがな)

5.電話番号、6.車イス席希望の有無

〈返信(表面)〉

ご自分の住所、氏名(宛先) ※氏名には「様」をお付けください。

### ◆問合せ・申込先

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号

名古屋市文化振興事業団「半額鑑賞会」係

TEL(052)249-9387 FAX(052)249-9386

### ◆主催

公益財団法人名古屋市文化振興事業団、名古屋市

社団法人日本演劇興行協会、中日劇場、御園座

### ◆往復ハガキの記入例

往信(表面)	返信(裏面)	返信(表面)	往信(裏面)

※応募結果につきましては、12月22日(木)以降、返信ハガキにて通知いたします。

### 【注意】

○チケット料金の他に、取扱手数料(1枚につき300円)と  
払込手数料、チケット郵送料が必要です。

○車イス席をご希望のお客様は、必ずその旨をご記入ください。

【お知らせ】次回は平成24年4月上旬に6・7・8月公演を募集する予定です。

### ◆公演内容

	演 目	公演番号	日 時	料金・定員
2月	宝塚歌劇宙組公演 【出演】大空祐飛、野々すみ花 ほか	①	2月 8日(水)16:30	■A席(2階) 7,500円を 3,750円に 〈各100人〉
		②	2月15日(水)16:30	
		③	2月16日(木)16:30	
		④	2月20日(月)16:30	
3月	ミュージカル ハムレット 【出演】井上芳雄、村井国夫、涼風真世、伊礼彼方、成河(ソノハ)、毘夏美 ほか	⑤	3月 3日(土)17:00	■A席(2階) 11,000円を 5,500円に 〈各100人〉
		⑥	3月 4日(日)12:00	
3月	吉本特別公演 1部 パラエティショー 2部 王立新喜劇 【出演】内場勝則、未知やすえ、池乃めだか、後藤ひろひと ほか	⑦	3月 9日(金)14:00	■A席(2階) 6,000円を 3,000円に 〈各100人〉
		⑧	3月10日(土)15:00	

	演 目	公演番号	日 時	料金・定員
2月	二月 花形歌舞伎 【出演】尾上菊之助、尾上松緑、中村時蔵 ほか	⑨	2月 7日(火)11:00	■1等席(2階) 14,000円を 7,000円に 〈各200人〉
		⑩	2月 9日(木)16:15	
		⑪	2月11日(土・祝)11:00	
		⑫	2月12日(日)16:15	
3月	早乙女太一 特別公演 【出演】波乃久里子 ほか	⑬	3月17日(土)16:00	■1等席(2階) 12,000円を 6,000円に 〈各200人〉
		⑭	3月21日(水)11:00	
		⑮	3月22日(木)16:00	
		⑯	3月24日(土)11:00	
4月	細雪 【出演】高橋恵子、賀来千香子、水野真紀、石川梨華 ほか	⑰	4月 9日(月)11:00	■1等席(2階) 13,500円を 6,750円に 〈各200人〉
		⑱	4月11日(水)16:00	
		⑲	4月15日(日)11:00	
		⑳	4月22日(日)16:00	



## 名古屋市文化振興事業団 2012年企画公演 ミュージカル『シンデレラ』

名古屋市文化振興事業団では、毎年、地元で活躍する音楽・演劇・舞踊をはじめとする舞台人の総力を結集し、新しい可能性を追求する総合舞台芸術公演を開催しています。

28回目を迎える今回は、ミュージカル界の巨匠リチャード・ロジャースとオスカー・ハマースタインⅡ世によるミュージカル「シンデレラ」(上演台本・訳詞・演出/永井寛孝、編曲・音楽監督・指揮/中島良史、振付/高木順子)を上演します。

オーディションにより選ばれた出演者と生のオーケストラが、名作童話の世界を美しく楽しい音楽、賑やかなダンスシーンにのせてお贈りします。この機会にどうぞご来場ください。

### シンデレラの「そお〜っと」

オスカー・ハマースタインⅡ世の脚本・作詞による『シンデレラ』を元に、なるべくそのまま忠実に、と思いつつもそお〜っと変えてしまった部分があります。シンデレラがお城の舞踏会に向かう継母と姉たちを見送り、部屋のすみっこで舞踏会に行く自分を夢見ているところに現れる魔法使いとのやりとりの場面。

原作ではひどい目に合っているシンデレラを励まし、慰めに現れた魔法使い(亡くなった母)が、なんとか自分の夢をかなえてほしい、かなえられるでしょ!とシンデレラにせがまれ、とうとうほだされ、魔法を使ってしまうという流れになっているのですが、今回の『シンデレラ』ではそうじゃありませんでした。シンデレラの明るさはもちろんそのままですが、ちょっぴり常識的な女の子にしてみました。

『常識的』というのは、かぼちゃが馬車になったりハツカネズミが白馬になるようなことは現実には有り得ないこと、夢の中だけのことだと自分でわかっている、という意味です。つらいことや悲しいことがあるといつも部屋のすみっこで空想に耽って気を紛らわせる女の子、ということに。そんなシンデレラにハッパをかけた魔法使い(亡くなったお母さん)という関係にしてみました。

何故そうしたのか? ある作家の言葉「日本人には『あきらめる』という国民性がある。これはある意味では美しく、また生きるための知恵ではあるけれど、言うべきときに口を閉ざすという危険性を持つ」といった内容の文章に共感したからかもしれません。こうなったらいいなあと思うけれど、どうせ無理だから、と何もしない、しようとしなない人たちが自分も含めて日本にはたくさんいる気がしてならないのです。

世界を見ると昨日までは信じられなかったことが現実となる出来事が起きています。傷つくことをおそれて夢という洞窟に逃げ込んでも光は見えません。夢見することはすてきなこと。そこに勇気というエネルギーを加えればきっと! そんな思いもそお〜っと込めてお贈りしたいと思うのです。



上演台本・訳詞・演出  
ながい かんこう  
永井寛孝

俳優・脚本・演出家として劇団テアトル・エコー、オリジナル歌芝居集団おっ、べれた、コメディオンザボード(旧・マルセカンパニー)など舞台を中心に活動。劇中歌「納豆をおいしく食べるには」は「ひらけ! ポンキッキ」でビデオ・CDになる。USJアトラクション日本語版台本、ピューロランド脚本・演出など「イルカ・アシカショー」からオペラまでジャンルにこだわらず活躍。テアトル・エコー演出部所属。愛知県出身。

日 時	2月17日(金)18:30、18日(土)11:00・16:00、19日(日)11:00・16:00 (5回公演)
会 場	青少年文化センター・アートピアホール
料 金	S席 4,000円(1F) A席 3,000円(2F) <全指定席> ※事業団友の会会員は1割引
助 成	芸術文化振興基金
問い合わせ	公益財団法人名古屋市文化振興事業団 TEL 052-249-9387 FAX 052-249-9386

### Cast

シンデレラ 桂川結衣	クリスファ-王子 政所和行	継 母 目次恭子	義理の長姉ジョイ 鈴木さほこ	義理の次姉ポーシャ 渡辺さくら	魔法使い 青木保奈美
国 王 市川太一	メイジー王妃 加藤恵利子	B.V.ラビッド伝令官 早川とものり	ガデストリー執事長 園田裕史	デリシャス料理長 川瀬邦成	

◎街の人たち、王宮の職員、舞踏会の招待客など(コーラス・ダンサー)

伊藤一城	伊藤沙緒里	今岡一慧	岩本琢磨	URARA	加藤千佳	小瀬水素古
杉浦あゆ美	杉谷麗奈	高木千晶	高見侑加	多畑成美	林 真美	彦坂由理子
舟橋香里	三島早稀	山田ありさ	山田卓敬	山田美波	四井望友	

### Staff

上演台本・訳詞・演出/永井寛孝 音楽監督・指揮・編曲/中島良史 振付/高木順子  
管弦楽/セントラル愛知交響楽団 美術/大田 創 衣裳/木場絵理香 照明/曾我裕幸  
音響/尾崎 砥 小道具/井上知也 メイク/伊藤ヒトミ 舞台監督/遠藤圭介  
宣伝美術/安田美香(株)シャコー) 演出助手/磯田有香、堀尾宣彰、宇野伊世  
副指揮/小島岳志、米丸史朗 振付助手/山崎未友季  
稽古ピアノ/佐藤真由美、西尾由希、杉山真理子 制作委員/栗木英章、関山三喜夫、夏目久子



**Chacott**

バレエ・ダンスを愛する人のために、1950年から。

チャコット名古屋店  
〒460-0008 名古屋市中区栄3-2-32 TEL. (052) 242-4322  
営業時間/10:30~19:00 年内は休まず営業(年末年始を除く)  
■通信販売のお申し込み先/名古屋支店■  
TEL. (052) 242-4311 FAX. (052) 242-4313  
www.chacott-jp.com

**舞台VTR映像専科**  
ステージの感動を格調高い映像で追求します。

ビデオソフトの企画・制作

有限会社 エーワン・ビデオ・システム  
TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100

**TOKAI VIDEO SYSTEM**

ハードシステム部門  
AV機器販売部門(家庭用)  
映像企画・制作部門  
放送関連部門  
機器設備レンタル部門

映像メディアの未来を創る  
生きた情報を発信

株式会社 東海ビデオシステム  
名古屋市中区上筒井二丁目14-15 TEL.<052>322-6541(代表) 6562(芸能部)

innovason Ether  
LACOUSTIC ES  
lake  
whirlwind

■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守

株式会社エーアンドビー  
〒464-0846  
名古屋市中区栄三丁目18番9号  
TEL.052(761)5400  
FAX052(761)0909

**「なごや文化情報」に関するアンケート**

下記についてご回答いただき、FAXまたは郵送にて送付してください。12月25日(日)【必着】  
ご協力いただいた方の中から抽選で20名様にドニチエコミっぴをお送りいたします。  
※発表はきっぷの発送をもって代えさせていただきます。

●なごや文化情報について

1 あなたは「なごや文化情報」をご存知でしたか。  
①知っていた ②今回初めて読んだ

2 あなたは「なごや文化情報」を読んでいますか。  
①全部読む ②一部読む ③ほとんど読まない

3 1の質問に①②と答えた方にお伺いします。  
◆「なごや文化情報」をいつごろから読んでいますか。  
①1年未満 ②1年以上5年未満 ③5年以上

◆「なごや文化情報」の中で関心を持つ記事はなんですか。(複数回答可)  
①表紙 ②随想 ③今月のうた ④視点(特集)  
⑤この人と ⑥ピックアップ(街角余話) ⑦おしらせ(文化事業案内)

4 内容について、どう思われますか。  
①よい ②まあよい ③あまりよくない ④よくない

5 今まで「なごや文化情報」をお読みになって感じたことをご記入ください。

6 今後「なごや文化情報」で取り上げてほしい話題や、コーナーがありましたら、ご記入ください。

7 ご回答いただいた方の①お名前②性別③年代(30代など)④郵便番号⑤ご住所⑥電話番号

【送付先】〒460-0008  
名古屋市中区栄三丁目18番1号ナディアパーク8階  
(公財)名古屋市文化振興事業団・文化情報アンケート係  
FAX 052-249-9386

**「なごや文化情報」編集委員**

飯塚恵理人(相山女学園大学文化情報学部教授)  
小沢優子(名古屋音楽大学講師)  
倉知外子(オクダ モダンダンス クラスター 副代表)  
酒井晶代(愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授)  
田中由紀子(美術批評/ライター)  
はせひろいち(劇作家・演出家)

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報は、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。